

吹田市環境白書 2022

WHITE PAPER
ON THE ENVIRONMENT
IN SUITA 2022

はじめに

米国がパリ協定に復帰したことで始まった昨年は、国連気候変動枠組条約第26回締約国会議(COP26)に至るまで、国内外の気候変動政策が劇的な変化を遂げ、世界でカーボンニュートラルに向けて大きく前進した年でした。COP26における「グラスゴー気候合意」において、世界全体に及ぶ危機である気候変動と生物多様性の損失は相互関係にあり、自然や生態系の保護・保全及び回復が重要であると述べられており、気候変動と同時進行で、生物多様性の保全、大気や海洋汚染の防止、プラスチックごみへの対処をはじめとした資源循環等にも取り組む必要があると言えます。

近年、2030年(令和12年)を達成目標とするSDGs(持続可能な開発目標)への関心が高まっており、2015年(平成27年)の国連合意から6年が経過する中、SDGsの企業・国民への認知度は向上しています。一方で、国際的な研究組織である持続可能な開発ソリューション・ネットワーク(SDSN)は、2022年(令和4年)6月に「Sustainable Development Report(持続可能な開発レポート)2022」を発表し、我が国のSDGs達成度ランキングは19位と年々順位を下げています。特に環境分野と深い関わりのある13(気候変動に具体的な対策を)、14(海の豊かさを守ろう)、15(陸の豊かさを守ろう)などの目標が最大の課題と評価されているため、達成度向上に向けて、積極的に取り組む必要があります。

我が国においては、地球温暖化対策の推進に関する法律の一部を改正する法律やプラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律等が成立し、グリーン社会の実現に向けて国を挙げて取組を進めています。

本市においては、エネルギー消費量及びごみ排出量の削減が一定進んでいるものの目標達成に向けて継続的な削減が必要です。今後、より一層のエネルギー消費量やごみ排出量の削減のため、市民・事業者によるライフスタイルや事業活動の転換に向けた、さらなる取組が必要です。

これらの状況を踏まえ、喫緊の課題である地球温暖化問題を解決するため、市民・事業者・自治体が「自分事」としてこの状況を深く受け止め、ライフスタイルや事業活動の転換を図ることが必要不可欠であり、自治体は効果的な対策をすみやかに実行することが求められます。これを受け、西宮市、尼崎市、豊中市、吹田市の4市(NATS)は府県を超えて広域的に施策を展開し持続可能な社会を実現するため、地球温暖化問題の解決に向けた連携に関する基本協定を締結しました。

本書は、本市が実施している環境施策の進捗状況と環境の状況についての報告書です。本書をとりまとめることで、環境基本計画に掲げた目標の達成度合いを確認し、施策の見直しや充実を図ります。あわせて、身近な環境に関心を持ち、自らのライフスタイルを環境の視点から見直すきっかけとなれば幸いです。

目次

第1章 吹田市の環境政策	1
第2章 目標の達成に向けた重点戦略	3
第3章 目標達成への施策の展開	
第1節 エネルギー	7
再生可能エネルギーの活用を中心とした低炭素社会への転換	
第2節 資源循環	15
資源を大切に作る社会システムの形成	
第3節 生活環境	19
健康で快適な暮らしを支える環境の保全	
第4節 みどり・自然共生	27
自然の恵みが実感できるみどり豊かな社会の形成	
第5節 都市環境	31
快適な都市環境の創造	
第4章 環境基本計画に基づく進行管理	37
資料編 環境まちづくりデータ	39
(資料編の内容は吹田市ホームページに掲載しています。)	
1 環境基本計画	
2 環境関連条例	
3 環境基本計画の進行管理	
4 環境関連資料	
5 吹田市まちづくり用語集	
6 環境年表	
7 環境記念日	

—環境白書の編集について

この環境白書は、吹田市環境基本条例に基づいて毎年発行しているものです。

2022年版(令和4年版)は、データや集計については、2021年度(令和3年度)における実績をとりまとめました。それ以外の記述は、2022年(令和4年)10月初旬時点での実績です。

本書は、現在課題となっていることにスポットをあて、まとめています。詳細なデータは資料編にまとめ、吹田市ホームページに掲載しています。本書とあわせてご活用ください。